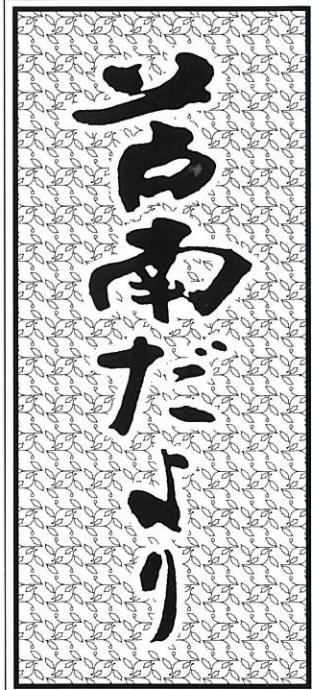




つながるための「言葉」

校長
藤島 尚子



第193号
令和6年3月1日
発行
苦小牧南高等学校PTA

を感じることはないかもしれません。世界には日本語に翻訳されない情報もたくさんあると認識した方がよさそうです。もちろんA-I翻訳を使いながら外国语の情報を日本語で読むことも可能になってきています。

本校の学校教育目標には、「国際社会の有為な形成者を目指し」と掲げています。そのため、英語を重視した取組を入学者選抜の段階から行っています。

これには、英語ができるというだけに

とどまらず、多様な文化や、多様な背景を持つ人々と共生できる感性を育むこともあります。寛容であつたり、誠実であつたりという人格も必要です。他国の文化や政治事情を理解する知性や知識も必要でしょう。あるいは、人間関係を構築する力や課題解決力、一歩踏み出す力なども身に付けて欲しいところです。

一方、国内に目を向けてみると、日本語指導が必要な外国籍の生徒や帰国子女も増えています。日本国内でも多言語化が急速に進んでいます。「みんな同じ」「言わなくてもわかる」は通じなくなります。また、人々の常識や感覚も多様化が進んでいます。こうした状況の中では、論理的に説明する力や批判的思考力も必要でしょう。

「天災は忘れた頃にやってくる」とは科学者で随筆家の寺田寅彦の有名な言葉ですが、近年の日本において災害を忘れることがあるのでしょうか。今年1月1日の能登半島地震では、この原稿を書いている時点では、被害の全容も明らかになつておりません。一日も早く平穀な日々が訪れる事を願つてやみません。犠牲になられた方々に心からご冥福をお祈りいたします。

災害の時はもちろん、日常でもウェブサイトにおける情報の重要性が高いということは疑いようがないでしょう。一見すると、情報が溢れかえっているが使用され、英語が使えなくとも不便

報は全体の55%が英語による発信で、日本語が使用されているサイトは全体のわずか3%にすぎないので。日本語でインターネット検索をすると、さまざまな情報にアクセスしているようで、実は限定的な情報にしか触れていないのが実情です。日本の場合は、大学で使用するテキストも講義も日本語

が使用され、英語が使えなくとも不便

大きいに揺さぶって欲しいと願つています。1億人を超える日本語話者はそれなりの勢力ですが、15億人の英語、11億人の中国語、6億人のヒンディー語、5億人のスペイン語に比べたら少ない話者です。日本では、若い世代を中心韓国語を学習する人も増えていました。翻訳機の性能が高まつたとしても、言語を学ぶことで、文化の理解も深まり、世界とつながる機会も増えてくることでしょう。

校訓の「流汗悟道」のとおり、汗をかきながら体験することで身に付ける学び、「至誠礼節」のとおり礼儀を重んじて、これから社会をたくましく生き抜く力を身に付けて卒業して欲しいと思います。令和5年度第四十六期卒業生の皆さん、卒業を祝い、幸多かれと願っています。



3年次団

「新時代」
三年次主任 津田祐助

北海道苦小牧南高等学校第四十六期卒業生の皆さん、並びに保護者等の皆様、ご卒業おめでとうござります。

思い起こせばこの三年前、多くの方々に支えて頂きました。新制服導入年度の入学生として、南高のスタンダードとなるのがこの年次であり、一年時には特に身だしなみ指導については気を張っていました。しかししながら、制服は違えど校訓「至誠礼節」の伝統を築いてきた先輩や町の南高へのイメージ、先生方の協力、何よりこれまで生徒を育ててくれた保護者等の皆様によるご協力のおかげで今の南高の姿があるのでないでしょうか。

生徒の頑張りも私が思っていた以上によくやつてくれたと思っています。新型コロナによるパンデミックが令和二年に二月から始まり、彼らは多くの制限を中学時代から受けました。学校行事や部活動についての影響はこれまでの同年代よりも遅れをとつていると感じざるを得ない事がありました。それでも令和五年五月より新型コロナも五類へと移行し、今年度については各種行事や

大会等を以前のように行えました。しかしこの空白の数年間のブランクは大きく、本来先輩から後輩へと引き継がれていたであろう多くの伝統が途切れていたことを感じました。学校祭での行灯制作などは最たるもので、間近で先輩の作業の様子や作品を見ることが出来なかつた影響はありました。それでも、2年次・3年次とクオリティを上げ、南高の伝統復活の礎となることができたのではないか。

少し卒業生を褒めすぎと感じるかも知れませんが、私にとつて彼らは新たな伝統を作る事と、一度途絶えた伝統を復活させることを成した生徒たちだと思います。その生徒を育てて頂いた保護者等の方々、これまでの十八年間本当にご苦労さまでした。おかげさまでこちらも充実した三年間を送ることができました。ありがとうございます。

卒業おめでとうございます

二組担任 渡邊徳彦

第46期卒業生の皆さん、そして保護者の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。

私は今回で七回目の卒業担任です。苦南では二回目となり、そして教員最後の担任、卒業生となる年次です。

生徒と共に悔いのないよう卒業式を迎えると歩んで参りました。入学当初、「人生三万日、高校生活千日」、千日をどのように過ごすか。また、ある本の一節「学校行事や課外活動を頑張る生徒は進路が成功するよ」と常に述べてきました。そして実践した三年間でした。特に、学校祭には力を入れました。友達・勉強・部活動・行事などから得られることは多かつたですか。必ずしもプラスな面だけでなくマイナスの面もあつたかもしれません。でも、これらの経験は人生の財産となりいずれかの場面できつと役に立つことだと信じています。

12月、教室の黒板に卒後式までのカウントダウンが始まる。それを見ると毎回思うことがある。生徒は三年間で本当に成長するものだと。外見はもちろんですが、特に内面の成長や対人への所作です。社会に出ても大丈夫だと思う場面が多く、うれしい限りです。大学・短大・専門学校就職とひとり一人進路は様々ですが、悩み迷い苦しむ場面が多くなります。自分で考え、模索しながら答えを導けるよう社会人としての成長を期待します。失敗を恐れず、後退するではなく前へ進んでください。

生徒会誌「飛翔」にも書きましたが、これから時代、一年先すら読めない難しいことが多いと思います。SNやバーチャルな世界だけでなく、多くのことにチャレンジし経験を積んでください。今しか出来ない、得られないことを大切にしてください。

結びに、生徒から「先生、ありがとう」という言葉たくさん貰いました。しかし、感謝を述べるの私の方である。教員最後の卒業生となつてくれた君達に「ありがとう」。皆の活躍を期待しています。また再会出来れば幸いです。

「卒業に寄せて」

三組担任 本 保 尊 子

三年前、まだ少しあどけなさの残る表情で入学してきたことを懐かしく思い出します。新しい制服になつて初めての年次生で、とても新鮮な気持ちと同時に、新しい時代の始まりで気の引き締まる思いでした。

皆さんの高校生活の半分以上は、

新型コロナウイルスの影響により学校生活にさまざまな制限がありました。中学時代から引き続いて高校でもマスクをした状態で、私自身なかなか皆さんの顔を覚えられず苦労しました。

この場面で高校生活を楽しむ姿を見る限がある中でも、皆さんにそれぞれの記憶があります。ただ、色々な制

三年前の苦南だよりにこんなことを書きました。「皆さんの可能性は無限大です。決して失敗を恐れず、未知の領域にもどんどん挑戦し、自分の糧としていつてほしい」さて、三年間でどれだけのことに挑戦できましたでしょうか。ひよつとしたら挑戦できなかつたことがあるかもしれません。保護者の方々をはじめ周囲の人達に支えられながら仲間と共に学び、心身共にたくましく成長しました。高校生活は楽しいことばかりではなかつたと思いますが、時には真剣に悩み前進しようとする姿、仲間に思いやる優しさや笑顔から、多くの感動をもらいました。

今まで親や先生など、周囲に甘えながら生活してきましたが、これからは大人としての責任が伴い、自分で判断し行動する場面が増えます。沢山の経験を礎に、これから新しい世界に羽ばたいてください。皆さんのに幸多からんことを願っております。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業誠におめでとうございます。無事にこの日を迎えるのも、ひとえに皆様のご協力の賜物と感謝しております。本当にありがとうございます。

皆さんの入学後の苦南だよりで私は、三つのことについて期待をしますという内容の文章を書きました。「高校生活での出会い大切にする」「自分を成長させる三年間にする」「母校となる苦小牧南高校に愛着を持つ」の三つでした。期間限定ともいえる南高での生活の中で人それぞれ違いはあるものの勉強だけではなく様々なことを学んだり手に入れたりしたのではないでしようか。それはどれをとってもこの苦小牧南高校に来なければ見ることのできないかった景色であり、得ることのできなかつたものであります。これから的人生において、この三年間で手に入れたものを大切に、そして高校生活を様々な形で支えてくれた人

たちへの感謝の心を忘れずに歩んでいくください。

四組担任 觸 澤 和 樹

北海道苫小牧南高等学校第四十六期生の皆さん、並びに保護者等の皆様、ご卒業おめでとうございます。

校のためオンラインで実施した朝のグラウンド2周の行灯行列だった初めの苦南祭。コロナによる臨時休修。マスクをすることが日常となり、楽しい時間となるはずの昼食も黙食をしなければならない日々。新型コロナの影響を様々な場面で受けた三年間であつたと思います。

皆さんの入学後の苦南だよりで私は、三つのことについて期待をしますという内容の文章を書きました。「高校生活での出会い大切にする」「自分を成長させる三年間にする」「母校となる苦小牧南高校に愛着を持つ」の三つでした。期間限定ともいえる南高での生活の中で人それぞれ違いはあるものの勉強だけではなく様々なことを学んだり手に入れた

りしたのではないでしようか。それらなる成長と活躍をお祈りしております。本当にありがとうございます。



保護者等の皆様には、三年間多くの場面で本校及び年次の教育活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。高校卒業のこの日を無事に迎えることができたのもご家庭のお力添えあってのものと感じております。高校卒業後新たな出発をすることになりますが、お子様方のさらなる成長と活躍をお祈りしております。本当にありがとうございます。

三年間を振り返つて

三年次一組 山 岸 紘 己

私の高校三年間を振り返つてみると、長いと感じていた高校生活も終わってみれば短くあつという間の三年間でした。一年次の頃は部活動についていくのに精一杯で勉強との両立が難しく一番つらい時期でした。しかし、簡単にあきらめることなく粘り強く取り組んでこの時期を乗り越えることが出来たからこそ今の自分があると思います。二年次では学校生活に慣れてきて、部活動と勉強の両立を目指し日々精進しました。その中で時間を有効活用することの大切さを学び、自己管理能力が身についたと感じています。また、修学旅行などの行事もあり一番高校生活を楽しんだ学年でもありました。三年次では三年間の部活動の集大成である夏の選手権大会で悔しい結果に終わってしまいましたが後悔のない三年間を過ごすことが出来ました。そこからは勉強の毎日でした。これまでの遅れを取り戻すために必死に勉強しました。努力が実り総合型選抜で大学合格が決まつた時は喜びも嬉しかったです。また、生徒会での活動は初めてのことばかりで大変



一人でした。高校生活で一番大切だったことは、周りの人々とのつながりと成長でした。友達や先生方との触れ合いを通じて、多くのことを学び、自分を成長させることができました。また、部活動や学校行事への参加を通じて、責任感や協力の大切さを学びました。部活動でお世話になった顧問の先生や勉強の苦手な自分をサポートしてくださった先生方や高3年間だけではなくこれまでの人生を支えてくださった両親、そしてこれまで関わってきたすべての方々に感謝いたします。

三年次二組 星 崎 結 香
高校三年間を振り返ると、私は沢山の学校行事を思い出します。新型コロナウイルスに学校行事が左右された印象がありますが、変化の多いこの三年間を、苦小牧南高校で過ごすことができよかったですと感じています。特に学校祭とスポーツ大会は、三年間全てが異なる形で行われたため、毎年新鮮な気持ちで楽しむことができました。

高校初の学校祭は、ステージ発表と行灯行列がグラウンドで行われ、前例のない学校祭でした。私はそんなイレギュラーな状況で学校祭を作り上げた生徒会の先輩方に憧れ、生徒会執行部として学校行事に携わるようになります。二年次からは規制の緩和が多くなったことで、教室展示や室内でのステージ発表、道路での行灯行列が行えるようになります。私は中学生の時、コロナの影響で一番楽しみにしていた教室展示ができなかつた思い出があつたため、高校で教室展示を行えたこと、さらに運営にも携われたことがとても嬉しかったです。また、生徒会での活動は初めてのことばかりで大変



なこともありましたが、今となつては全てが大切な思い出です。何より、生徒会メンバーと一緒に活動を行いながら、何気ないことで笑える時間が本当に楽しかったです。
苦小牧南高校での三年間は本当にあつという間で、実りある充実した時間を過ごすことができました。最後に、支えてくださった皆さん、関わってくださった皆さん、心から感謝申し上げます。

今年度の活動より



壮行会



学校祭



学校祭



学校祭



スポーツ大会



1・3年次遠足



2年次見学旅行



2年次見学旅行

